

ホーム名：グループホーム東神田の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内の理念を基に事業所としての運営方針を策定しそれに基づき各ユニットの目標を設定し実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を設定している。理念に基づき、各ユニットごとに行動目標を立て、職員は日々、ケアの実践につなげるよう努めている。	管理者と各ユニットリーダーが連携し、職員一人ひとりが、法人の理念を理解し、理念をより具体化された行動目標を日々のケアで実践されていくことを大切にされていくことに期待したい。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や社会福祉協議会主催等の行事や講習会に業務に支障のない範囲で参加し地域の一員として交流できる機会を設けている	市の事業である”親子で介護サーキット”の取り組みに協力し、地域の子どもたちが、利用者として過ごし、介護に対する理解を深める活動を通じて、地域とのつながりを深めている。	今後も地域とともに暮らす一員として、市の事業への協力を行いながら、自治会行事等を通じた交流を深めながら、地域で必要とされる活動への参加等を通じて、地域との関係性を深めていかれることに期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣のNPO法人主催の行事に参加しそこでの参加者と交流する事で少しずつではあるが地域の人々に向け認知症の人の理解、支援方法を発信している			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会や市の関係者に出席を呼びかけ状況報告や話し合いを実施している	運営推進会議には、地域の代表者や地域包括が参加され、事業所からは、現状報告や新たな取り組み状況について意見交換が行われている。意見交換の結果は、必要に応じて運営にも反映されている。	利用者とその家族の参加が難しい場合は、議事録を家族にも配布したり、施設に訪問された家族に運営推進会議の状況を説明される等家族の関心を引く工夫を充実していられることに期待したい。家族と利用者、職員とのランチ会やお茶会等を企画	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議において市の担当者に参加をお願いしている。また、生活保護対象者の担当者にも電話や訪問により協力関係を築くことのできるようにしている	地域の地域包括支援センターと緊密に連携しながら、必要に応じて、市役所担当者とも良好な関係が築けている。	行政は介護保険の保険者であり、地域福祉の推進役でもあるため、施設側で、市と連携して介護分野での地域の課題解決等に取り組んでいられることに期待したい。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	内部研修などを通じて身体拘束行為にどのようなものがあるかを認識し職場でそのような行為がないか相互にチェックしている。外部からの訪問者対応が確立していないために玄関の施錠については未実施である	各職員向けに研修を行いながら、各ユニット内のカンファレンス等で職員同士が意見交換を行い、身体拘束の防止に努めている。新たな取り組みとして、居室にWebカメラを設置し、利用者と家族の同意のもと、見守りツールとしての活用を試行されている。	身体拘束廃止未実施減算の開始に伴い、その基準も参考に身体拘束をしないケアの実践や職員研修の充実を生かされていられることに期待したい。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃されないよう注意を払い、防止に努めている	事業所内年間研修の中に虐待についての研修項目を設けている。また、往診医の指示の基で定期的な血液検査を実施し入浴時には身体異常箇所がないか内部と外部からチェックしている。			

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護に関して学習する項目を事業者内年間研修に設けている。また、ケア会議ではその必要性の有無について討議し必要があると判断した場合は管理者を通じて後見人等を選任する手続きを実施している</p>			
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結等に際しては利用者の家族と直接話をし理解、納得を得た上で実施している。また、様々な理由で家族との面談が困難な場合は後見人等と面談し同様の手続きを実施している</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者については日々の業務内で要望等を伺い家族については意見箱や面会の際に要望等を伺うよう全職員に通達している。</p>	<p>家族面会時には、職員から積極的に声がけを行い、意見や意向の確認を行うようにされている。利用者の意見や意向も日頃のケアの中で、確認を行うようにされている。聞き取りされた意見の共有化の新たな取り組みとして、SNSを活用を試行</p>	<p>面会にこられない家族もおられるので、どのように意見を出して頂けるのかについて、事業所側、利用者側、家族側のそれぞれの事情を考慮しながら、交流を深め、意見を出しやすい状況をつくっていかれることに期待したい。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>ユニット会議では各ユニット職員より意見や提案を聴く機会を設けその意見等は毎月開催するユニットリーダーと管理者との会議で報告、相談等をし反映できるようにしている</p>	<p>各ユニットリーダーは、職員からケアでの気づきや意見、考えを聞き取り、必要に応じて運営に反映できるよう管理者へ報告されている。各ユニットリーダーから職員へフィードバックされている。</p>	<p>隣接したグループホーム事業所とも連携はされていますが、運営に関する意見は、各事業所、各ユニット単位で事情が違いますが、意見交換等通じた交流を深めることによる相乗効果も期待できると思われる。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>毎月の勤務予定を作成する際は事前に希望休等を記入してもらい反映している。また、急用等で当日に早退や欠勤の申し出があった場合は業務支障が最小限になるように人員配置を再決定している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各種研修や資格取得の案内を積極的に連絡し参加を呼び掛けている。また、法人独自に資格取得金貸付制度を導入し様々な資格取得を推進している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>近隣の施設で開催される講習会や交流会に参加し職員間、施設間でのネットワーク構築を形成できるよう推進している</p>		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前には管理者等とユニット職員が同行、同席し様々な要望に耳を傾け利用前から安心を確保できる様に努めている		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族等との面談や説明の際は業務に支障がない範囲でユニット職員が同席している。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、ケアマネージャー、ユニット職員が先ず必要な支援やサービス内容について話し合う機会を入居前に設けている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	散歩やレクリエーションの際は職員が必ず同席し世間話や自身の近況などを互いに話す機会を設けている		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族等が面会に来られた際は職員は同席し家族の近況を伺うと共に本人の生活状況を伝え支え合っていくことのできる関係を構築している		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族等が来られて際は居室へ案内しゆっくり過ごしてもらえようとしている。また、ニュース等で故郷の話題がでると幼少期や学生時代にどのような暮らしをしていたのかなどを話題にしている	家族や友人、知人が気軽に面会に来てもらえるような雰囲気づくりや近隣への散歩等を通じて、地域の方と交流も行われている。友人や知人の面会時には、家族に確認する等の配慮が行われている。又、利用者の外泊にも対応されている。	事業所だけで取り組むことが困難なことも多いので、家族や地域の支援をもらいながら利用者との関係継続に取り組んでいかれることに期待したい。
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	社交性が豊かな方、一人でゆっくり過ごしたい方などそれぞれの嗜好を理解し座席を配置している。また孤立を防ぐため職員が仲介役となり入居者同士が係わりあえるよう支援している		
22	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	業務外においても本人、家族とお会いした際は挨拶し近況等を伺うようにしている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前には職員が管理者や介護支援専門員に職員が同行し様々な希望や意向を伺っている。また困難な場合は家族等から話を伺い本人の希望や意向に沿えるようにしている	各ユニットリーダーを中心に職員は、利用者が望む暮らしや何をしたいのか等と把握するために日々のケアの中で声を掛け、把握に努めている。加えて、家族にも利用者の思いや意向を確認されている。	利用者の思いや意向の把握には、日々のケアを通じた関わりの中でのタイムリーで正確な記録が大切になってくるので、SNS等も活用されていかれることに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	利用前や契約時には事前聞き取り用紙にて生活歴や環境、サービス履歴等を把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のカンファレンスで各職員から日々の様子や気付きを聴取し現状把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員、家族、訪問看護等の医療部門と相互に意見や診断結果を交換し本人がより良い暮らしを送られるようアイデアや治療方針を出し合い介護計画に反映している	利用者や家族とも十分に話し合いを行い、ケアプランに反映させるようにしている。利用者の変化を確認できるモニタリングとカンファレンスを通じて、ケアプランの見直しができる体制となっている。	利用者や家族等からの新たな要望や意向がないような場合でも、利用者との日頃のケアの中で、思いや意向を把握し、ケアプランに反映されていかれることにも期待したい。又、タイムリーで正確な記録も大切となるので、SNS等も活用されていかれることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各入居者別に管理シートを作成し気づき等を記入できるようにしている。また、容態の急変や救急搬送時には専用の様式を作成し詳細な記録を作成し情報共有すると共に介護計画作成時に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズや支援に対応するため施設だけでなく介護支援専門員や医療専門職などと連携し従来の枠にとらわれないサービス提供に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や近隣のNP0法人の協力を得て地域住民や近隣の介護施設利用者と交流をしている。また夏祭りや敬老会といった行事に必要な飾り付けを利用者と共に作成している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等の希望を第一優先とし納得が得られた際は協力医療機関（往診医）をかかりつけ医としている。また、往診で対応できない診療については施設で送迎を行い適切な医療機関への受診支援をしている	協力医療機関による定期的な往診が行われている。又、協力医療機関以外の受診は、家族や利用者の希望に応じた受診できるように職員が、できる範囲で、受信の付き添いにも対応されている。	寝屋川市でもドクターカーの利用による救急医療が利用できるようになってきている。ドクターカーの利用等介護に加えて、医療面での利用者サポートにも力をいれていかれることに期待したい。

31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>入居者一括管理シートや申し送りノート、緊急時記録用紙等を作成し日々の気付きや容態急変時の情報を的確に伝えられるようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時には職員が同行しどのような経過で入院となったのかを説明し利用時の介護内容を書面で作成し当日に渡せるようにしている。退院時も職員が同行し病院から退院までの経過を聴取している。また、諸用で電話や訪問する際は職員が直接関係部署に連絡するようにしている</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に終末期医療についての説明を行っている。また重度化を見据えて事前に本人の意思を聴き取り家族の意向や訪問看護、往診医の意見等を交え事業所として可能な支援を検討し実施している</p>	<p>重度化や終末期の看取り等、本人と家族の意向を踏まえて、医療機関とも連携をとり、本人と家族が安心して重度化や終末期を過ごせるよう取り組んでいる。 家族には、事業所として出来ることと出来ないことを伝え、理解を得るようにも努めている。</p>	<p>重度化や終末期の対応では、家族との話し合いと家族を含めた関係者全員との合意、その後の状況の変化に応じた繰り返しの話し合いが必要になるかと思われるが、本人や家族の思いに対し、事業所と医療機関がチームとして対応されていかれることに期待したい。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や事故発生時には備え事業所としてマニュアルを作成している。法人内研修でAEDや応急手当の講習を開催している。またユニット内には救急救命法講習修了者が在籍している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時の避難訓練を様々な想定で定期的に行っている。また災害発生時に備え自治会や行政の担当部署との意見交換を実施し協力体制の構築を進めている</p>	<p>想定される火災発生に対し、消防署からの最適な避難対策のアドバイスを基に避難訓練を年2回、実施されている。災害時に備えて、水は3日間の備蓄をされている。</p>	<p>地域で想定される台風（水害）、地震等の地域での具体的な影響はある程度、把握できているかと思われるので、影響に対する対策も年2回の訓練で実施されていかれることに期待したい。又、食料品の備蓄として缶詰パンも検討されてはどうか、種類も多く調理不要で</p>

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員に対して言葉づかいについては人格尊重や尊厳を損ねないという観点から厳しく指導している。また、職員には常に自分自身が被介助者の立場になって言動を行うように指導している	介助が必要な時は、本人に気持ちを大切に考えながらさりげない言葉がけやケアに努めている。又、年長者として敬意を払いながら、利用者の尊厳を大切にされている。	全職員が、利用者の人格尊重とプライバシーの確保を維持していくことは難しいことも多いと思われるが、継続して、ユニットリーダーを中心に職員間で日頃のケアの中で、お互いに確認しあうことも大切にされるいか
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	就寝介助や入浴介助等で利用者と一緒に介助を行う際に思いや希望を伺っている。更衣や入浴時には複数の選択肢を用意し自己決定を支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、就寝と行った様々なシーンにおいて本人の意向を伺い一人ひとりのペースを尊重し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後、外出時といったシーンでは持参の嗜好品を使い身だしなみを整えたりおしゃれが楽しめるよう支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事を作る際は事前に利用者に食べたい物を聴き実施している。また、準備や片付けの際も適時支援を行い利用者と実施している	各ユニット単位に月2回の計画で、手作り食が提供されている。配膳や後片付け等、利用者にはできることを手伝ってもらっている。食事中、職員は利用者に声がけをしながら食事を楽しくしてもらえるようにも努めている。	今後も手作り食の機会を通じて、食事に関する調理、盛り付け、配膳、後片付けなどを、利用者個々の力を活かしながら職員と利用者が一緒に食事を楽しむ機会を多くしていかれることに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	三食以外に二回の水分補給時間を設けている。また食事形態や水分の種類や摂取方法等については職員だけでなく看護師、家族にも助言を求め一人ひとりの能力に適した種類や方法で実施している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用時には週一回の訪問歯科診療の利用を勧めている。また、毎食後には口腔ケアの声かけや介助を実施し清潔保持に努めている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄回数や間隔についてはチェック表を用いて行っている。トイレ内での自己排泄に向け夜間帯においてはおむつの使用を最少限にし自立支援を行っている。	排泄チェック表を基にトイレでの排泄を維持するために、行きたいときにトイレに行くことができるよう利用者に声をかけたり、利用者の様子から本人と他の利用者に配慮しながらさりげなく排出介助をされている。	今後も継続して、排泄の自立維持に向けて、排泄介助支援の様々な取り組みを利用者に配慮しながら努めていかれることに期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や既往歴など様々な影響を考慮し飲食物や運動への工夫や支援をしている。また、看護師や往診医などとも連携し内服による予防にも取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	施設として一定の入浴日を決めているが管理表に基づき週二回の入浴を実施している。またシャワー浴、入湯浴についても本人の意向にそって支援している	入浴スケジュールは決めているが、利用者のその日の状態や希望を確認してから入浴スケジュールを調整されている。入浴ができない場合は、足湯に切り替える等柔軟に対応されている。	今後も継続して、利用者の状態や希望にそった入浴スケジュールの調整を行いながら、入浴介助を通じて、利用者の思いや意向を確認できる場としても活用されていかれることに期待したい。

46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用開始時に生活習慣の聴取を行い利用開始後もその習慣を継続支援できるようにしている。また、状況に応じて居室誘導し昼寝等を実施している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬、外用薬など全ての薬品についてはすぐ閲覧できるよう個人ファイルの最初項に保管している。服薬時の化については一括管理シートや申し送りノートに記載し全職員が確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	タオルたたみ、洗濯干しといった様々な役割を日課として取り入れている。また、嗜好品については家族に購入をお願いしている。気分転換、楽しみごとの支援としてカラオケや折り紙等実施をしている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	寒暖や人員の関係で本人の思うように支援できていないのが現状である。近隣の施設で開催する夏祭りや敬老会といった行事に参加する事で日常と異なる場所で過ごして頂けるよう支援している	地域のイベントに応じた外出支援を行いながら、近隣への散歩やコンビニへの買い物等の個別の外出支援が充実できるように努めている。	外出を気分転換やストレスの発散、五感刺激の機会として、利用者全員が気軽に近隣への散歩等の外出を楽しめるよう取り組んでいかれることに期待したい。職員の時間の確保が必要となるため、様々な工夫の取り組みにも期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族等の意向で全利用者に金銭の自己所持支援はできていない。一部の利用者は出納帳を作成し金銭の収支のみ施設で管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	暑中見舞いや年賀状といった季節に応じた手紙等を書いてもらいで支援している。電話によるやり取りについては希望は出ていない		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では必要最小限の装飾にし視覚的な混乱を招かないようにしている。時間や気温などによる環境変化には照明、カーテン、空調などを適時調整し不快感をなくすと共に生活感を感じられる空間となるようにしている	リビングや食堂は、清潔感あふれ明るく、室温調整にも配慮しながら過ごしやすい家庭的な空間となっている。又、利用者が落ち着くBGMも流されている。	今後も家族と過ごす家庭に近い環境を感じてもらえるよう工夫されていかれると思われるが、フロアの飾りつけ等を家族と一緒に考えて、取り組んでいかれることにも期待したい。家族の思いや意向を確認できる取り組みとしても活用されていかれることにも期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間において一人になれる場所は施設構造上で難しいが居室で過ごして頂く事で代用している。また、気の合う利用者同士が思い思いに過ごせるよう適時お茶などを提供している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始時には使い慣れた整容品や家族との思い出の品などを持ち込みしてもらい居心地良く過ごしてもらえるようにしている。	各居室は、自宅との違いによる不安等がなくなるよう、利用者がその人らしく居心地よく過ごしてもらえるよう思い出の品等が置かれている。利用者は、安心して過ごせることができています。	居室は、他の利用者との共同生活の中で、プライバシーが確保され、安心して過ごせる場所となる。今後も利用者の立場に立ち、利用者や家族と相談しながら安心して巣ごせる居室づくりに取り組んでいかれることに期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎月のカンファレンスにおいて本人のできること、わかることを話し合い身体的、精神的へ変化に応じて自立支援や安心安全な生活がおくれるようにしている		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない